

東北の山を巡る・花と温泉の山旅



(八幡平・八幡沼と稜雲荘)

期 日 2017年7月6日(木)～10日(日)
場 所 森吉山(1454m)・秋田駒ヶ岳(1637m)
・八幡平(1613m)・姫神山(1124m)
参 加 石川 誠 佳子



(森吉山頂上)

行 程 7/6日(木) 晴

横浜 ycat2 1:10 発 夜行バス盛岡行きに乗車

7/7日(金) 晴

6:00 着盛岡駅 8:10-田沢湖経由-10:30 阿仁スキー場登山口
着 Gondola 駅 11:10-11:30 終点着 11:30 Gondola 終点駅
12:00-12:15 避難小屋 12:30-13:10 森吉山頂上
13:40-14:05 避難小屋 14:15-14:40 Gondola 頂上駅



(ナマハゲ)

15:00-15:15 Gondola 駅着 15:15-田沢湖温泉宿舎 16:30 着
バスは、予定通り盛岡駅に早朝 6 時に到着。駅前で朝食後予約しておいたレンタカーを借りて、一路田沢湖経由、森吉山の登山口である、阿仁スキー場に到着。身支度を整えて Gondola に乗り頂上への登山道を辿る。ここは花の百名山としてつとに有名で平日にも関わらず登山者が見受けられた。この地域は、マタギの故郷としても有名であるとのこと、登山道にはクマ出没注意の看板も見られる。Gondola を下りて 25 分ほどで途中にある阿仁避難小屋で小休止、登山道わきには色とりどりの花が咲いている。途中稚児平を経由して間もなく森吉山に到着する。頂上からは岩手山、これから登る秋田駒などが霞んで見える。

帰りは元来た国道 105 号線を戻り、田沢湖高原温泉郷にある、宿へと向かう。

宿ではゆっくり温泉に浸かり、夜食は秋田名物・キリタンポ鍋などを初めて食べ、「なまはげ」の歓迎を受ける。

7/8日(土)晴

宿舎8:00発-8:20 駐車場(アルパ駒草)8:30-8:50 八合目駐車場 9:00-9:35 片倉岳
9:40-10:20 阿弥陀池 10:30-10:55 男岳 11:05-11:25 阿弥陀池 雛小屋
11:45-12:05 男女岳 12:15-伊家 12:15 通過-12:45 横岳 12:55-焼ノ森 13:05-13:40
八合目駐車場 13:50-14:40 アルパ駒草駐車場
14:35-16:00 八幡平「藤七温泉・彩雲荘」泊

今日は秋田駒ヶ岳に登る。宿からマイカー規制の為、アルパ駐車場へ向かい、そこからバスで八合目登山口まで登る。駐車場は土曜日とあって満車状態。リムジンバスも満員、運よく臨時便に飛び乗り、八合目登山口までつづら折りの道を揺られる。今日も目の前には岩手山が望め、左肩には安達太良山も見て取れる。



(男岳～の阿弥陀池俯瞰)

梅雨は何処に、青空の下登山開始である。ゆっくりと片倉展望地を経て阿弥陀池の道をのんびり

りと辿る。ツアー登山者も多く、花を見ながらの登山となる。ここから男岳へ、頂上からはムーミン谷が遙か下に望まれる。下には女岳、小岳の噴火口が見え、秋田駒が火山によってできた山であることが一目瞭然である。来た道を池に戻り今度は、男女岳に登る登山者が蟻の様に登って

行く、花の百名山まさに人気の山な



(ムーミン谷を見下ろす)



(秋田駒頂上)

のだとつくづく感じる。遙か彼方に鳥海山も見ることが出来、田沢湖も真下に浮かんで見える。

360度の絶景である。

軽く食事を摂って横岳、焼森への周回コースを辿り、八合目の駐車場に下りる。途中の焼森の



(藤七温泉・彩雲荘)

砂礫地帯には所々コマクサが咲いていたが、岩手山の焼き走りコースに咲くコマクサの方が数

が多く感じた。八合目のバス停から臨時便に飛び乗りアルパ駐車場に戻る。



(藤七温泉・野天風呂)



(工藤七郎・岩手県岳連会長)

此処から国道341号線に沿って玉川温泉を經由、八幡平アスピーテラインに乗って今夜の宿藤七温泉「彩雲荘」に入る。

ここの温泉に入るのは、まさに50数年ぶりのことで大変懐かしく感じ、今回の山旅の目的の一つでもあった。



(S38年搜索隊結団式)

この宿は昭和37年暮れに仕事先のM氏が八幡平へ山スキーに出掛け行方不明となった経緯があり、翌年5月職場の山岳部として搜索活動を展開する。当時は道路もなく、松尾鉾山からリフトに乗って茶臼岳、源太森を經由し、避難小屋の稜雲荘に入り此処をbcとして搜索活動に入った。

当会会長であった白石氏が日山協役員の関係から、岩手、秋田各山岳連盟のご協力を得て、搜索活動を展開した。

総指揮は、岩手県山岳連盟の会長さんであった工藤七郎氏、岩手県警察の出堀宏明氏などの方々を中心として秋田、岩手各山岳連盟の方々



と地元阿仁村ノマタギのかたがたなと総勢4~.50人の体制で実施された。広大な八幡平の雪原を横隊に並んで活動に入った。

(搜索時の岩手山・見返り峠~)

雪原には今朝ほど歩いたであろう真新しい熊の足跡も残り、緊張の中の搜索でもあった。

結果として発見には至らず、この地では過去にも盛岡鉄道管理局の5人の方々などまだ多くの遭難された方が発見されていないとの話を聞いた。現在に至るもm氏の発見には至らず、改めてご冥福を祈った。



藤七温泉は、現在も秘湯の湯として有名で、その場所は道路も開かれ以前の位置から若干牽き屋されセットバックしたとのことであり、当時搜索の前線基地となっていた稜雲荘は、ログハウスですっかり様変わりしていた。

両施設とも場所は変わらず昔の面影を残しており、看板を見て昔の面影が蘇ってきて懐かしく感じ、湯殿にあった金精様も昔と変わらず鎮座していた。

そして雪こそなかったが、見返り峠から見る畚岳・岩手山が当時と変わらぬ姿で迎えてくれていた。

7/9日(土)晴

藤七温泉 8:00-8:10 駐車場 8:30-8:45 八幡沼・稜雲荘避難小屋 9:05-9:20 八幡平頂上

9:25-9:50 駐車場 10:16-アスピーテライン経由 11:10 一本杉登山口 11:30-12:05-五合目
12:15-12:45 八合目 14:35-13:35 姫神山頂上 14:05-14:30 八合目 14:35-14:55 五合目
15:00-15:15 登山口 15:30-16:00 ユートランド姫神 17:30-盛岡 23:55-横浜へ

藤七温泉を後にし、八幡平へ登山口から 20 分ほどで八幡沼の稜雲荘避難小屋へ根小屋はすっかり建替えられ、ログハウスで寝泊まりできる様、ストーブ、薪などが供えられ、快適そうな寝床などが用意されている、すっかり変わって昔の面影はなかったが、稜雲荘という看板が当時を思い起こさせてくれた。それから頂上へ、此処は林の中で、周囲を見渡すには階段を上って設えられているテラスに上がるようになっていた。ここからメガネ沼、鏡沼を経て元の駐車場に戻った。一周 1 時間程の行程であった。

駐車場から八幡平樹海ライン、松川温泉を経て岩手山の北側を辿って一路渋民村の先、姫神山の一本杉登山口に到着する。丁度昼ごろ大変暑い日でもあった。

登山口から少し登って行くと右手の杉林の中に一際大きな太い杉が立っている、この杉が登山口の名称となっている。



(姫神山登山口に有る一本杉)



(姫神山頂上)

此処から急な階段を上ると 5 合目の開けた稜線に出る。ここからさらに尾根を直登するように急な階段を上って八合目、このあたりからミズナラ、ダケカンバなどの木が目立ち、大きな露岩帯となって一息で目の前に岩手山を望む開けた頂上があり、時間的には短いのだが、汗びっしょりになった本当に暑い日でもあった。頂上で汗が引けるのを待って元来た道を下る。

途中親切な親父さんと出会い、しばし世間話、65 歳でこの地に町田〜引越して、13 年 78 歳とこと。毎日健康のために登っている。3500 回は登っているとの話を聞き、ほんとかんと思いながらも明るく親切な親父さんと話し込んでしまった。

帰りに風呂を浴びたいがと聞くと、「ユートランド姫神」という温泉施設があるという、一緒に案内しますよと言うのを丁重に断り、帰りにその施設によって汗を流し、気分爽快で盛岡に戻り、また同じ夜行バスに乗って横浜に戻った。

今回は暑かったが、天候にも恵まれ、温泉も良く、花は真っ盛り、東北はやはり波長が合う思い出深い山行を又一つ増やすことが出来た。

7/10 日(日) 横浜 ycat9:45 着 帰宅する。

記録 石川 誠

今回の山旅で出会った花々



エゾツガザクラ



イワカガミ



ニッコウキスゲ



ゴゼンタチバナ





チングルマ



ハクサンチドリ



リンドウ



コマクサ



シャクナゲ

